# 地歴公民（世界史）　東京大学　（前期）　1/2

## ＜全体分析＞

試験時間　２科目で150分

**解答形式**

（第１問）論述式　（第２問）論述式　（第３問）記述式

**分量・難易（前年比較）**

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

第１問は，昨年度と同様に20行であった。2018年度（22行）を除いて，近年は20行での出題が続いている。昨年度は３つの史料を読み取らせる出題形式であったが，今年度は史料を扱わなかった。第２問は，昨年度復活した４行論述が引き続き出題された。４行が１問，３行が３問で，２行論述が出題されなかった。一方，３年ぶりに短答記述の形式で２問出題された。近年，地図や図版を読み取らせる出題がなされていたが，今年度は地図・図版ともに出題されていない。総行数は2019年度の11行，昨年度の16行に対して，３行少なくなり13行となった。第３問はこれまで通り設問10問。2019年度の解答数は11個，昨年度は10個であり，今年度も解答数は10個。また，３年連続で１行論述は出題されなかった。

**出題の特徴**

第１問は５世紀から９世紀にかけての地中海において３つの文化圏が成立していった過程を，宗教の問題に着目しながら記述させる問題である。昨年度と異なり史料は出題されなかった。指定語句は例年８つだったが，昨年度は６つ（３つの史料を扱うことが求められているため，実質的には９つともいえる）となり，今年度は７つであった。第２問は問(1)で中世後期における農民の地位向上，ロシアの農奴解放令，問(2)でフィリピン革命，問(3)でアパルトヘイトが問われた。第３問については，2018年度に図版・地図・史料を用いた出題がなされたが，今年度については例年通りシンプルな出題形式が踏襲された。

**その他トピックス**

第１問，第２問，第３問ともに，定番となっている出題形式が踏襲された。入試「改革」の初年度となったが，東京大学の入試問題は何十年にもわたって高度な思考力・判断力などを求め続けており，とりわけ目新しいことを行う必要性はなかったのだろう。第１問は地中海世界の変動と再編というオーソドックスなテーマ。第２問ではフィリピンや南アフリカについて出題されており，地域史の学習が結果を分けたと思われる。第３問は例年通り平易であり，最低でも１問ミスまでにとどめたい。

ズバリ的中として，第２問の問１(b)は，高３東大世界史Ⅱ期第４講の農奴解放令の問題で扱った。また，問３(b)は，高３東大世界史Ⅱ期第11講で，1980年代末からマンデラ大統領誕生までの経緯を扱ったほか，大学受験科の世界史論述完成シリーズ第23・24講でもアパルトヘイトの概要を扱った。

また，第１問については高３世界史論述の第７講で，大学受験科の世界史論述基礎シリーズの第７・８講で，地中海世界の再編を扱っている。第２問の問１(a)については，高３東大世界史Ⅰ期の第２回テストや，大学受験科の世界史論述基礎シリーズ第９・10講で中世後期における農民の地位の変化を扱ったほか，問２(b)では大学受験科の世界史論述完成シリーズの第15・16講で米西戦争とフィリピンの独立戦争を扱っている。しかしながら，合格点に達するためには，日々の真摯な学習が何より重要なことは言うまでもない。

© 河合塾　2021年

# 地歴公民（世界史）　東京大学　（前期）　2/2

## ＜大問分析＞

| 番号 | 出題形式 | 出題分野･テーマ | コメント(設問内容･答案作成上のポイントなど) | 難易度 |
|---|---|---|---|---|
| 第１問 | 論述 | 地中海世界における３つの文化圏の成立過程（５世紀～９世紀） | 「地中海世界において３つの文化圏が成立していった過程」を「宗教の問題に着目しながら」述べることが求められている。従って，カトリックの西ヨーロッパ文化圏，正教の東ローマ（ビザンツ）文化圏，イスラーム文化圏の成立過程を示せば良い。問題文の「新しく軍事的覇権を手にした征服者」としてゲルマン人やイスラーム勢力などを想定する。「政権の交替」や「特定地域の帰属関係の変動」などを具体化しつつ，単に政治史を書くのではなく，宗教と関連付けて各文化圏の成立過程を説明することに留意したい。要求が「５世紀から９世紀」なので，４世紀の内容を詳述する必要はない。また，カールの戴冠までで論を終えるのではなく，９世紀の状況も考察する必要がある。また，指定語句の「ギリシア語」から，西ヨーロッパ文化圏のラテン語，イスラーム文化圏におけるアラビア語についても指摘してほしい。 | 標準 |
| 第２問 | 論述 | 身分制度と集団間の不平等（中世後期～現代） | 問(1)(a)「複数の要因」とあるので，一つの要因だけに拘泥せずに，貨幣地代の普及，ペストの流行に伴う労働力の減少など，複数の要因を示すこと。(b)農奴解放令の内容が分かっていれば解答できるが，「農民の生活状況はあまり改善されなかった」理由が問われているので，要求に即した解答を作成する必要がある。土地分与が有償だったことと，土地がミールに帰属したことを示せれば良い。 (2)(a)出版物の名称を知らなくても，民族運動を展開した文学者ということから想起できる。問(3) (b)「この政策が撤廃された背景」がやや難しい。 | 標準 |
| 第３問 | 記述 | 人の移動（８世紀～現代） | 問(3)はゴール朝，問(4)はムラートなどと混同しないこと。問(6)は「弾圧を試みたフランスの指導者」なので，独立運動の指導者トゥサン=ルヴェルチュールを挙げないこと。問(10)は，「1960 年代以降」や「移動制限」からベルリンの壁と判断する。 | やや易 |

※難易度は５段階「易･やや易･標準･やや難･難」で，当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## ＜学習対策＞

第１問は，題意を踏まえていかに歴史的な文章を構成できるかが問われるので，論述力を日々研鑽することが大事となる。第２問は基本的な問題が中心だが，要点を的確に指摘できるように内容の理解を深めておかないと高得点は望めない。第３問は平易だが，第１問・第２問との時間配分にも留意しなければならない。基本知識をしっかり習得したうえで，第１問の大論述だけでなく，第２問の短い論述に対しても十分な準備・対策が必要である。年度ごとに出題形式・字数など若干の違いはみられるが，本質的な学力を求められている点では変わらない。時間軸・空間軸に沿って大局的に歴史をとらえることを心がけよう。

© 河合塾　2021 年